

(別紙 8)

北海道におけるジビエ利用拡大等のための狩猟捕獲支援に係る計画/評価報告

1 現状の狩猟の状況及び課題、本事業実施の必要性等

エゾシカの推定生息数及び農林業被害額は高水準で推移している中、狩猟による捕獲数は平成 24 年度の 69,271 頭から令和 5 年度の 35,232 頭へと大きく減少している。

ジビエを取り巻く環境については、国がジビエ利用量倍増を目標として掲げるなど今後の消費拡大が見込まれるが、本事業によりエゾシカの捕獲を推進し、捕獲個体の有効活用を進めるとともに、狩猟者の資質向上に役立ったと考えられる。

注 1：直近 2 カ年程度の対象種の狩猟の実施状況（捕獲数、増減傾向、総捕獲数に占める割合等）や、ジビエ利用拡大のための支援を実施する場合は、狩猟全体におけるジビエ利用数と傾向を記入するとともに、現状を踏まえた狩猟の課題、本事業実施の目的・必要性を記入すること。

注 2：事業実施後の評価報告においては、当該年度の狩猟の状況を記載すること。

2 取組内容・実績

(1) ジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援

ア 狩猟捕獲経費の支援

指定管理鳥獣名	ニホンジカ（エゾシカ）
目的・目標	狩猟によるエゾシカの捕獲を推進するとともに、捕獲個体の有効活用を進める。
支援捕獲数及びその考え方（算出方法等）	計 3,876 頭（搬入 2 頭目以降を対象とし、手数料としてオス 1 頭当たり 8,000 円、メス 1 頭当たり 10,000 円を支払う。）
実施体制（受託者名等）	支援者数 172 名
効果	捕獲数の向上につながったほか、狩猟者と処理加工施設が連携し、捕獲個体の搬入から食肉等の流通まで円滑に行うことができた。
評価方法	狩猟捕獲個体（R6:25,744 頭(速報値)、R5:33,018 頭(速報値)） 処理加工施設に搬入された個体（R6:4,048 頭、R5:4,270 頭） 施設に搬入した狩猟者数(R6:199 人、R5:183 人)
事業費及びその考え方（算出方法等）	搬入経費 45,522,000 円 5,700 頭 （うち支援対象頭数 5,000 頭（メス 2,761 頭、オス 2,239 頭）

	事務費（旅費・需用費等）2,239,000 円
その他	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

注3：実施区域の位置が分かる地図を添付すること。

#### イ 処理加工施設における取組

指定管理鳥獣名	ニホンジカ（エゾシカ）
目的・目標	
実施体制（受入施設名）	別添のとおり
実施内容	処理加工施設向け、廃棄物処理費用と搬入確認経費を支援。 事業に参加する処理加工施設向けの資料を作成し、17事業者に対して書面開催にて事業説明会を実施した。
持ち込み狩猟者数	199名（事業者ごとの持ち込み狩猟者数は別添のとおり）
受け入れ捕獲個体数（種別）	計4,048頭（事業者ごとの受入頭数は別添のとおり）
廃棄物処分量及び算出方法	計215,066.805kg（事業者ごとの処分量は別添のとおり）
効果	狩猟捕獲個体（※）のうち、処理加工施設に搬入された個体は15.7%であり前年度と比較して2.8ポイント増加した。処理加工施設に搬入した狩猟者も、8.8%増加し、事業普及による効果的なジビエ利用拡大ができているものと考えられる。 ※ 速報値による推計
評価方法	狩猟捕獲個体（R6:25,744頭（速報値）、R5:33,018頭（速報値）） 処理加工施設に搬入された個体（R6:4,048頭、R5:4,270頭） 施設に搬入した狩猟者数（R6:199人、R5:183人）
事業費及びその考え方（算出方法等）	廃棄物処理経費 20,180,850 円 （廃棄物 36.5kg/頭×搬入数 5,700 頭（見込）×処理費用 97 円/kg） 搬入確認経費 6,270,000 円 （搬入確認票発行等手数料 1,100 円/頭×搬入数 5,700 頭（見込）） その他経費 599,150 円

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に

関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

注3：「実施内容」には講習会等の指導内容、開催回数、参加人数等について、見込み又は実績を記入すること。

(2) 捕獲強化のための狩猟捕獲支援  
ウ 狩猟捕獲経費の支援

該当なし

エ 処分施設等における取組

該当なし

3 2の取組による効果や評価と今後の課題等（事業終了後の評価報告時のみ）

新型コロナウイルス感染拡大の影響による食肉需要が未だ回復せず、需要回復を見極めつつ、事業実施期間を10月から1月までの4ヶ月間として実施した。事業実施の結果、狩猟捕獲個体のジビエ利用向上につながったほか、狩猟者と処理加工施設が連携し、捕獲個体の搬入から食肉等の流通まで円滑に行うことができた。

注：2の取組による効果や取組の評価を具体的に記入すること。記入の際は、特に2の目的・目標、効果、評価方法を踏まえること。

また、評価等を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

参加した17施設のうち、5施設で上限200万円を超える処理費用が生じている（最大で3,038千円）。昨今の物価上昇によって廃棄物処理費用がさらに上昇していることから、処理加工施設への支援を拡充させることが必要である。

注：特記すべき事項があれば記入すること。

別添 各処理加工施設の実績

	事業者及び施設名	持込狩猟者数 (人)	受入頭数 (頭)	廃棄物処分量 (kg)
1	(有)ユック エゾ鹿加工処理施設	23	512	30,930
2	(株) ELEZO 社 ELEZO・LABORATORY	13	230	13,800
3	(有)阿寒グリーンファーム (有)阿寒グリーンファーム 食肉加工センター	3	59	3,061.5
4	(株)知床エゾシカファーム (株)知床エゾシカファーム食肉センター	20	381	27,919.96
5	古川建設(株) ドリームヒル・トムラウシ事業所	1	2	100
6	(株)上田精肉店 (株)上田精肉店 エゾ鹿加工センター	11	241	10,688
7	エゾの杜(株) 池田町エゾシカ等解体加工処理施設	9	154	11,047.235
8	すまい工房北海道(株) あぶかの森	2	135	7,700
9	(合)浦幌ジビエ (合)浦幌ジビエ	11	348	13,175.8
10	(株)Sauvage de hakodate Sauvage de hakodate	6	177	11,440
11	(株)アイマトン 北海道シュヴルイユ浦臼工場	32	546	26,261
12	(株)オホーツクジビエ (株)オホーツクジビエ	33	433	27,183.52
13	鈴木 光昭 deer food	8	233	12,766.5
14	(株)未楽来工房 (株)未楽来工房	3	280	1,280
15	林 徹 poro wacca	2	90	4,430
16	(株) Mt. (株) Mt.	18	138	8,040
17	(株)花畑牧場 十勝エゾ鹿工房	4	89	5,243.29
	合計	199	4,048	215,066.805